

【事業名】北海道十勝地方および釧路地方におけるアサマジミ北海道亜種および岡山県真庭市におけるウスイロヒョウモンモドキの保全 【団体名】特定非営利活動法人日本チョウ類保全協会

事業の背景・目的

アサマジミ北海道亜種およびウスイロヒョウモンモドキは、ともにかつては広い地域に生息していたものの、近年生息地が急激に減少し、絶滅が強く危惧される状況となっている。そのため、この事業では、両種の生息状況の調査、生息環境の改善、保全体制の構築等を行って、生息可能な草原環境を復元するとともに個体群を回復させることを目的とする。



事業の内容

事業①生息状況の調査

- ・成虫期または幼虫期に生息状況の詳細な調査を行って、個体群の状況を把握する。

事業②生息環境の改善

- ・生息地が草原であるため、環境を維持・復元するために現在の生息地及びその周囲の草原での草刈りを行う。
- ・食草の移殖や播種等による増殖を行う。
- ・シカの被害が出ている場所では、防鹿柵を設置して、シカの食害を防ぐ。

事業③保全体制の構築

- ・地域の方々への説明会、行政等との連携した取り組みなどを進め、継続的に活動ができる体制を構築する。
- ・草原が継続して利用されるような仕組みづくりを考え、地域への提案を行う。
- ・地元の協議会などとの連携した取り組みを行うことで、活動の規模を拡大する。

得られた成果

北海道のアサマジミでは、生息環境の改善を行い、良好な環境を復元する取り組みを進めることができ、ウスイロヒョウモンモドキでは、草原における草刈りを大規模な面積で実施した。そして、それぞれの地域で、保全関係者と連携して取り組みを進め、体制の構築を前進させた。

北海道のアサマジミでは、生息状況が脆弱であるため、できるだけ早期に絶滅を脱する取り組みを進め、ウスイロヒョウモンモドキは、継続して大規模な草刈りを行うことで、規模の大きい草原における復元手法を確立していく。

